

学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	鈴木京子【論文博士】 (人間発達科学専攻 平成17年3月単位修得退学)	<p>本論文は、海外派遣教員を調査対象として、どのようなプロセスを経て異文化接触が人間的成長や教員としての成長につながるのかを明らかにすることを目的としたものである。調査対象としては外国教育施設日本語指導教員派遣事業(REX プログラム)によって日本から海外の学校に派遣された経験を持つ 26 名の現職教員が選ばれた。現職教員が異文化での体験をどのように理解し、解釈しているのかを明らかにするため解釈的アプローチを採用し、修正版グラウンデッド・セオリーを用いて、海外派遣教員たちが日本との差異にどのような評価・感情を持ったか、その結果どのような成長に結びついたのかという点を中心にカテゴリー分析が行われた。</p> <p>その結果、異文化接触においては、ゲスト（ここでは派遣教員のこと）が「肯定的な評価・感情」に基づく「ゲストの変化」を経て人間的成長をとげること、「ゲストの変化」と「自己の振り返り」から導かれる「人間理解の深化」、「バイカルチュラリズムの萌芽」、「新たな目標の設定」という流れからなる主に認知面での人間的成長のプロセスが明らかされた。さらに、ゲストが人間的成長を遂げることによって、「教育技術上の変化」や「自己受容感の育成」という「心理的な変化」が起こり、「教員としての成長」も促進されていたことが示された。</p> <p>第1回審査委員会（平成25年10月21日）では、本論文が教員の異文化体験について緻密なデータ収集と分析を行っていることが高く評価された一方、研究の枠組みや研究に使われた概念や定義、インタビューデータや図表の論文での示し方等について指摘や疑問が出された。これらの指摘を踏まえて修正作業が行われ、第2回審査委員会（平成25年12月18日）では、指摘事項に対し修正が行われたことを確認した。平成26年2月17日に行われた公开发表においては、出席者から、派遣対象国による違い、否定的な評価・感情の克服プロセス等について質問が出され、質問に対していずれも適切な受け答えがなされた。最終審査委員会（平成26年2月17日）では公开发表と質疑への応答が十分なものであったことを確認した。以上の結果より、本審査委員会は、本論文が博士（社会科学）、Ph.D in Intercultural Education にふさわしいと判断し、合格とした。</p>
論文題目	教員の異文化体験 —異文化適応・人間的成長・教員としての成長—	
審査委員	(主査) 准教授 浜野 隆	
	准教授 富士原 紀 絵	
	教授 佐々木 泰 子	
	教授 米 田 俊 彦	
	教授 池 田 全 之	
インターネット 公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否（ 可 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 否 ）</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p style="margin-left: 20px;">ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p style="margin-left: 20px;">イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p style="margin-left: 20px;"><input checked="" type="checkbox"/> ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※ 本学学位規則第24条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	